

参考 4 福岡市基本構想

第 9 次福岡市基本計画（概要版・抜粋）

はじめに

福岡市総合計画の体系

福岡市総合計画は、福岡市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合的計画のことで、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。

本冊子には、平成24年12月に策定した福岡市基本構想及び第9次福岡市基本計画の概要を掲載しています。

- 基本構想・・・福岡市が長期的にめざす都市像を示したもので、福岡市のさまざまな計画や市政運営の基本になるとともに、市民をはじめ、まちづくりに携わる産学官民の多くの主体が共有するものです。(平成24年12月に新しく策定)
- 基本計画・・・基本構想に掲げる都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画です。(平成24年12月に第9次基本計画を策定)
- 実施計画・・・基本計画を推進するにあたって、福岡市が取り組む具体的な事業を示した4年間の中期計画です。(別途策定)

福岡市総合計画の体系

具体化



1

基本構想

目標年次無し

2

基本計画

10年間の長期計画

3

実施計画

4年間の中期計画

平成24年12月策定

※本冊子に概要を掲載

別途策定

I 福岡市基本構想

都市像

住みたい、行きたい、働きたい。
アジアの交流拠点都市・福岡



1

自律した市民が支え合い
心豊かに生きる都市



2

自然と共生する持続可能で
生活の質の高い都市



3

海に育まれた歴史と文化の
魅力が人をひきつける都市



4

活力と存在感に満ちた
アジアの拠点都市

1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市

福岡市は、大陸との交流の歴史に育まれた、自由かつ達で進取の気性にあふれた自治都市です。市民一人ひとりの力が、自治と支え合いを基盤とした地域コミュニティをつくり、住みよいまちをつくってきました。

市民生活が豊かであるためには、まず市民一人ひとりが自らを律し、交流と対話を通じて相手の立場を理解し合い、人権を尊重しあうことが大切です。国籍や年齢、性の違い、障がいの有無などにかかわらず、誰もがすべての人への思いやりをもち、住んでいる人にも、訪れる人にもやさしいまちをめざします。また、市民一人ひとりが生きがいと希望をもって健康に暮らしていけるよう、さまざまな仕事や地域活動などの活躍の場をつくります。

さらに、将来を担う子どもたちを育むことが大切です。子育てしやすいまちとして子どもの健やかな育ちを地域全体で支えるとともに、子どもや若者が、自ら学ぶ意欲と志をもち、心豊かにたくましく自立して生きていくことができるよう、社会全体で育んでいきます。

福岡市は、すべての市民がかけがえのない存在として大切にされ、一人ひとりがあたたかく支え合う心を共有し、それぞれが社会の一員としての役割を果たし、共に心豊かに生きることのできる都市をめざします。

2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市

福岡市は、豊かな自然と穏やかな風土に恵まれ、魅力ある景観と快適な生活基盤、充実した都市機能がコンパクトに整っている都市です。

将来にわたってこの都市の素晴らしさを持続していくために、豊かな自然を大切に守り、環境負荷が小さい低炭素・循環型のまちづくりを進めるとともに、これまでに築いてきた都市の財産を、最大限有効活用し、長く大切に使用していきます。また、都市の安全性向上を図り、日常的な安全の確保はもとより、大規模災害にも耐えられるまちづくりを進めます。

福岡市は、自然の恵みを大切にしながら、環境にやさしく、安全・安心で、美しく快適な生活の質の高い都市をめざします。

3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市

福岡市は、海を通じて世界とつながり、その長い歴史の中で独自の文化、個性を育んできました。それは、祭りや食、芸術やスポーツなどさまざまな都市の魅力を創り出してきました。

これからも、市民が海と接する多様な機会を創造し、都市的魅力と美しい自然が織りなす福岡市の個性づくりを展開します。また、福岡市固有の歴史や文化と融合した都市的魅力により、多くの人をひきつけ、多様な人が住みやすく活動しやすい環境づくりを進め、情報が行き交い、混ざり合う中で、新しい世界を創り出していきます。

福岡市は、独自の魅力と多様な交流が新たな価値を創造し、世界中の人をひきつける都市をめざします。

4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

福岡市は、地理的にも、歴史的にもアジアとの深いつながりの中で育まれた都市です。国際的な都市間競争がますます激化していく中、福岡都市圏の核として、九州さらには隣接するアジアの諸地域との連携を図り、日本を牽引していく都市としての役割を担っていきます。また、アジアとの交流を、市民、学術、文化、経済などすべての面で深化させ、アジアの活力を取り込み、アジアと共に成長していく都市をめざします。さらには、アジアの中の成熟都市として蓄積した知識や経験を生かし、アジア地域が抱える社会課題の解決や生活環境の向上に寄与することで、アジアの諸地域のモデルとなる都市をめざします。

福岡市は、福岡都市圏、九州、アジアと共に成長し、世界中から人、投資、物、情報、そして夢が集まる、活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市をめざします。

II 福岡市基本計画

1 都市経営の基本戦略

日本全体が成熟社会に移行していく中、福岡市は、世界中からさまざまな人をひきつけ、アジアの活力を取り込みながら常に躍動する都市として発展を続け、九州、日本の成長を牽引していくとともに、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市として、アジアの中で存在感のある都市づくりに時代の先頭を切って挑戦していきます。

【基本戦略】

- (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- (2) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

①生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す

福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動と呼び込み、都市の成長を実現させ、都市の活力によりさらに生活の質が高まるという好循環を創っていきます。

そのためには、人材の多様性とその交流や対話から生まれる創造力が必要であり、それを支える基盤として、さまざまな人材が育ち、集まり、活躍できる環境づくりに取り組みます。

②福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

生活圏・経済圏が一体化した福岡都市圏では、これまで交通、水、医療・福祉、環境などの都市圏に共通する課題と一緒に取り組んできました。

福岡都市圏を取り巻く環境は、少子高齢化の進行、人口減少社会の到来や情報化・国際化の進展など急激に変化しています。このような社会情勢の変化に対応していくためには、福岡都市圏の各市町が連携を一層深めて、一体となり、安全で安心して生活でき、文化や仕事が充実し、成熟した社会にふさわしい市民生活の場を提供するとともに、九州、日本全体の発展を牽引する、国際競争力をもった都市圏を実現していくことがより重要となります。

福岡市は、このような考えのもと、都市圏の各市町との連携を基盤にして、九州・日本・アジアとの関係においても、次のような広域的な役割を担っていきます。

住みたい、行きたい、働きたい。
アジアの交流拠点都市・福岡

質の高い生活が人と経済活動を呼び込む

生活の質の向上

- ・一人ひとりの元気
- ・支え合い、つながり
- ・安全、安心
- ・コンパクトシティ

都市の成長

- ・人をひきつける魅力
- ・企業の立地
- ・スタートアップ
- ・アジアと共に成長

都市の活力が生活の質を高める

人材の多様性、交流・対話、創造力

- ・教育
- ・人材育成
- ・人材の集積

【基本姿勢】

福岡市は、海に育まれた歴史や文化、豊かな自然環境と充実した都市機能、多彩な人材など、さまざまな財産に恵まれ、世界の中でも住みやすいと評価されている都市です。

アジアが世界における重要性を増しつつある今こそ、海に開かれ、アジアとの交流の歴史の中で発展してきた福岡市は、基本構想に掲げる都市像の実現に向けて、『人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市』をめざすという大きな志をもって、新しい時代の都市づくりに果敢に挑戦していきます。

それは、人口や経済規模で一番になるということではありません。福岡の未来に向け、市民一人ひとりが夢と自信をもって、豊かで住みよい美しいまちを創り、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市として、アジアに貢献し、そして目標とされる都市づくりに取り組んでいきます。

2 計画の目標

10年後の2022年度(平成34年度)の都市の望ましい姿を、まちづくりの目標として掲げます。
まちづくりの目標は、「分野別目標」、「空間構成目標」、「区のまちづくりの目標」で構成します。

(1) 分野別目標

「分野別目標」は、都市像の実現に向けて、人やまちをどのような状態とするかを目標として示したものです。

基本構想と基本計画の8つの分野別目標

基本構想		基本計画	
4つの都市像	<ul style="list-style-type: none"> ● 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市 ● 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市 	目標 1	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
		目標 2	さまざまな支え合いとつながりができている
		目標 3	安全・安心で良好な生活環境が確保されている
		目標 4	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
	<ul style="list-style-type: none"> ● 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市 ● 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市 	目標 5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
		目標 6	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている
		目標 7	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
		目標 8	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

(2) 空間構成目標

「空間構成目標」は、市民生活や都市活動の場となる都市空間を、どのように形成し、どのように利用する空間とするかを目標として示したものです。

(3) 区のまちづくりの目標

「区のまちづくりの目標」は、「分野別目標」や「空間構成目標」を踏まえ、市民及びさまざまな主体が、地域のまちづくりに取り組むために共有する目標として、行政区ごとにまちづくりの目標を示したものです。

以下、「福岡市基本計画」において、福岡空港のあり方と特に関連が深い分野別目標である目標8「国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている」、関連施策「成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり」を抜粋



目標8 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

1 めざす姿

- 都心部を中心とした高度な都市機能と、国際交流のゲートウェイにふさわしい充実した港湾・空港機能などにより、福岡都市圏は国際競争力の高い地域として国内外から評価されています。
- 多くの地場企業がアジアをはじめとした海外に積極的に展開しており、地域の経済を活性化しています。また、海外経験などをもつ日本人や留学生、外国人が、福岡市を舞台にさまざまな分野で活躍しています。
- アジアの中の成熟都市として蓄積した知識や経験を生かし、アジア地域が抱える社会課題の解決や生活環境の向上に寄与しています。
- 制度、習慣、言語などの違いを越え、海を挟んで向き合う福岡市と釜山広域市とが、二都市を中心とする圏域での生活経済圏を形成しています。

2 現状と課題

- ① 福岡市のみならず都市圏及び九州の経済を牽引していくには、都心部の機能強化が重要であり、今後もあらゆる人の活動を支えていくために、都市機能に磨きをかけていく必要があります。
- ② 公・民・学で先進的モデル都市づくりを推進しているアイランドシティや、知の拠点づくりを進めている九州大学学術研究都市など、都心部以外にも地域特性や財産を生かし、新たな活力を生み出す拠点を形成していく必要があります。
- ③ 人口減少局面を迎え国内市場の拡大が見込みにくい中、市内の事業者は市場を海外に求めており、海外展開のためのビジネス支援を強化していく必要があります。

- ④ 国際海上コンテナ取扱個数増やクルーズ客船(※1)の寄港増、国際RORO船(※2)などアジアとの物流網の充実、新規航空路線の就航などにより、人の移動や経済活動が活発化すると見込まれます。国内外の人流・物流の増加に対応するとともに、国際競争力をさらに高めるため、港湾・空港機能の一層の強化が必要です。
- ⑤ 福岡市ではこれまでもアジアを中心とした地域との人の交流が活発に行われてきましたが、今後、都市としての国際競争力において優位性を発揮していくためには、国際情勢に関する情報の把握能力を高めるとともに、グローバル感覚をもった人材の育成などにより世界とつながるグローバル人材を集積していく必要があります。
- また、外国人やその家族にとっても暮らしやすいまちであることが重要であり、教育や医療、情報アクセスなどの環境づくりが必要です。
- ⑥ アジアの諸都市が経済発展の一方でさまざまな都市問題を抱えている中、福岡市がアジアと共に発展していくためには、都市デザイン、環境、上下水道、交通、福祉などの分野で、国際貢献・国際協力していくことが必要です。
- ⑦ 釜山広域市は、福岡市と地理的に近接するという利点から、日常的な交流が盛んですが、経済文化交流をさらに推し進めるなど、次の展開につなげていく必要があります。

(※1)クルーズ客船 : 航空機や鉄道など代替・振替の輸送機関としてではなく、宿泊施設・様々なエンターテインメントを備えた、洋上ライフを楽しむための旅客船。

(※2)国際RORO船 : RORO(Roll-On Roll-off)船は、貨物を積んだ車両が直接船内に入り出て、貨物の積み降ろしをするため、他の船より作業時間が短い。博多港の国際RORO船は運航スピードが速く、航空輸送と比べても遜色ないスピードで低料金かつCO₂排出量も少ないことから、急ぎの貨物を低料金でエコに運びたい場合の輸送手段として注目されている。

**施策8-4 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり****施策の方向性**

成長著しいアジアに近接し、今後さらにモノ・ヒトの交流が活発になる博多港と福岡空港について、多様な航路の維持・拡大や、港湾・空港の能力や利便性の向上、都心部や背後圏との連携の強化などの観点から、アジアの玄関口にふさわしい機能強化を図り、物流・人流のゲートウェイづくりを進めます。

指標項目	現状値	目標値 2022(平成34)年(度)
博多港国際海上コンテナ取扱個数	85万TEU(注) (2011年)	130万TEU
外国航路船舶乗降人員	87万人 (2010年)	210万人
福岡空港乗降客数	1,634万人 うち国際線241万人 (2010年)	1,800万人 うち国際線350万人

(注)Twenty-foot Equivalent Unitの略。20フィートコンテナに換算してコンテナ個数を数える単位